

社会を生き抜く確かな学力を育成する授業の創造
～国語科における思考力・判断力・表現力等の育成を目指した指導法の工夫～

南大隅町立根占中学校 教諭 柏木 秀樹

目 次

1 研究主題	1
2 研究主題設定の理由	1
(1) 教育の動向から	
(2) 本校の学校教育目標, 生徒の実態から	
3 研究の実際	3
(1) 思考過程を振り返らせる手立てを講じた授業実践	
(2) 自己の考えを表現する場を設定した授業実践	
(3) 解答類型を伴う評価問題の作成と活用	
(4) 語彙の力を高める取組	
4 研究の成果と課題	7
(1) 全国学力・学習状況調査国語の結果比較から	
(2) 生徒質問紙調査から	
5 研究のまとめ	8

〔引用・参考文献〕

- ・『中学校学習指導要領解説 総則編』 文部科学省 平成 29 年
- ・『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 平成 29 年
- ・『平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例』
国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 30 年
- ・『令和 2 年度全国学力・学習状況調査解説資料 中学校国語』
国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和 2 年

1 研究主題

社会を生き抜く確かな学力を育成する授業の創造
～国語科における思考力・判断力・表現力等の育成を目指した指導法の工夫～

2 研究主題設定の理由

(1) 教育の動向から

情報化やグローバル化が急速に進む昨今、社会はめまぐるしく変化している。今後も人工知能や科学技術が発達し、誰も予想できない未来が創られていくであろう。そのような社会を生き抜く力を、子供たちに付けさせることが学校の役割であり、我々教師の責務である。

また、学習指導要領の改定に伴い、国語科では「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することを目指し、その資質・能力は「知識及び技能」、「思考力、技術力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。学習内容の改善・充実（① 語彙指導の改善・充実 ② 情報の扱い方に関する指導の改善・充実 ③ 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視 ④ 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実）、学習の系統性の重視、授業改善のための言語活動の創意工夫、読書指導の改善・充実が掲げられ、更なる授業改善が求められている。

(2) 本校の学校教育目標、生徒の実態から

本校は、「社会を生き抜く確かな学力と豊かな心を持つ、たくましい生徒を育成する」の学校教育目標の下、「自主・敬愛・錬磨」の校訓を掲げている。「自ら学ぶとともに考え意思を表現できる生徒」「自他を思い人間性豊かな生徒」「心身を鍛えたくましく生きる生徒」を「目指す生徒像」とし、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指している。

これまで本校では、「『主体的・対話的で深い学び』を目指した授業の創造」をテーマに掲げ実践研究に取り組んできたが、全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の結果や生徒の姿などから、以下のような課題が明らかになった。

ア 全国学力・学習状況調査の国語の結果から、表1のように、「読むこと」の領域における正答率が低い。また、記述式問題の無解答率が、表2のように県や全国に比べて大幅に高い。

表1 平成31年度全国学力・学習状況調査
(国語)「読むこと」領域の正答率

領域	本校	県	全国
全体	66.0%	70.0%	72.8%
「読むこと」	58.5%	68.8%	72.2%

表2 平成31年度全国学力・学習状況調査
(国語)記述式問題の無解答率

出題の趣旨	本校	県	全国
文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ	2.4%	1.6%	1.7%
話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	17.1%	9.5%	8.9%
伝えたい事柄について根拠を明確にして書く	14.6%	7.5%	7.9%

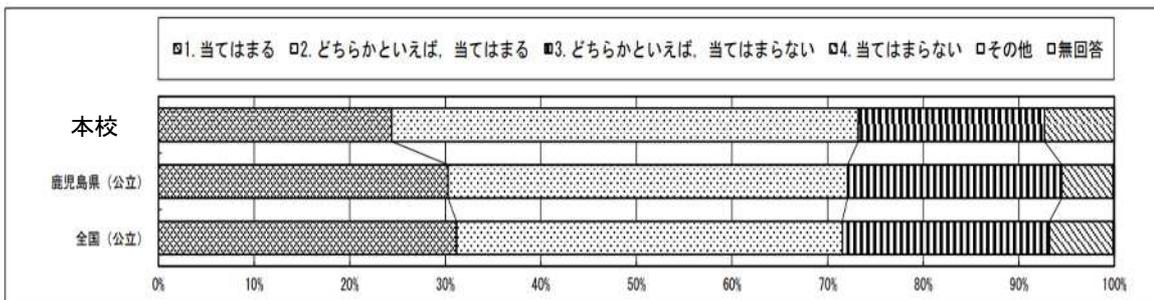
イ 鹿児島学習定着度調査の国語の結果から、表3のように思考力・判断力・表現力等の育成に大きな課題がある。小問ごとの分析を行うと、問われていることを的確に読み取って解答する問いや、文章や図・グラフなどの情報を正しく捉える問いに課題があった。

表3 令和元年度 鹿児島学習定着度調査（国語）の結果

		本校	県	県との差
中1	基礎・基本	78.2%	82.8%	-4.6%
	思考・表現	57.4%	72.6%	-15.2%
中2	基礎・基本	80.7%	78.1%	+2.6%
	思考・表現	50.6%	66.4%	-15.8%

ウ 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査結果から、図1のように国語科の授業内容を日常に生かしたり、論理的に記述しようとしたりする意識が低い。

質問番号	質問事項												
(44)	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか												
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答	
本校	24.4	48.8	19.5	7.3							0.0	0.0	
鹿児島県(公立)	30.3	41.8	22.4	5.4							0.0	0.1	
全国(公立)	31.2	40.4	21.7	6.7							0.0	0.1	



質問番号	質問事項												
(46)	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか												
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答	
本校	12.2	48.8	34.1	4.9							0.0	0.0	
鹿児島県(公立)	17.4	43.7	31.9	6.8							0.0	0.2	
全国(公立)	20.9	43.5	28.4	7.0							0.0	0.1	

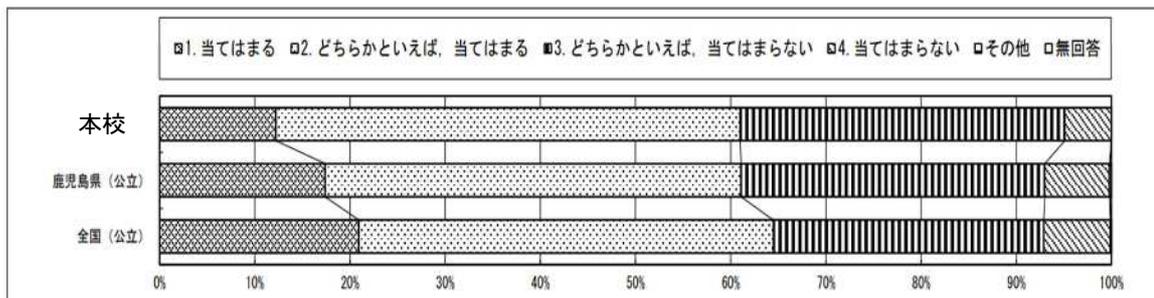


図1 平成31年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙回答結果

以上の課題を踏まえ、本校の生徒に「社会を生き抜く確かな学力」を身に付けさせるため、国語科における「思考力・判断力・表現力等」の育成が急務であった。そこで、学習指導要領で掲げられたことを軸に、学習指導法の改善・充実に取り組むこととした。

3 研究の実際

(1) 思考過程を振り返らせる手立てを講じた授業実践

全国学力・学習状況調査結果から、本校の生徒は、「読むこと」領域に大きな課題があることが分かった。そして、その背景には、文章を読む際に、印を付け、思考過程を整理することが徹底されていなかったため、自分の答えの根拠が不明確であったり、短時間で内容を把握することが難しかったりすることが分かった。

ア 授業アイデア例を参考にした授業実践

そこで、国立教育政策研究所教育課程研究センターが作成している「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」を参考に、文章の解釈を中心に据えた授業実践を令和2年（10月）に3年生の2クラス（合計45人）で行った。「答えにたどり着くまでの過程」を意識化させる取組であり、各自で問題に取り組むときに、手掛かりになる箇所印を付け、その後、図2のように「着目した段落とその理由」や「他に、どのような内容や言葉に着目したか」をお互いに説明し合わせた。答えにたどり着くまでの過程を説明し合うことで、自分たちの解答がなぜ異なっているのか、思考過程のどこで差異が出たのかを確認し、正解にたどり着くまでのポイントを明確化させた。

図3は令和2年度の全国学力・学習状況調査の結果と、上記の授業実践を2単位時間行ったあと、令和2年度全国学力・学習状況調査の大問2説明的な文章の設問に再度取り組ませた際の結果を比較したものである。文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を捉えることができるかどうか（設問一）、文章の展開に即して内容を捉えることができるかどうか（設問三）、文章の内容を捉え、書き手の考えを理解しているかどうか（設問四）をみた。7月時点で正答率の低かった設問一と設問四で大きく正答率が向上した。

生徒への聞き取りの結果、接続する語句やキーワードを意識して読むことで、筋道立てて読むことが可能になったと感じていることが分かった。文章の解釈に必要な、接続する語句に対する意識が高まったこと、各段落の役割をつかみやすくなったことが要因であると思われる。

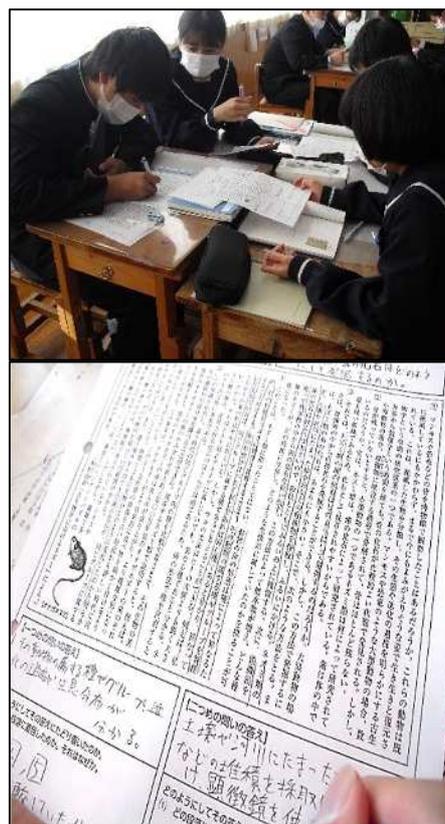


図2 授業実践の様子とワークシート

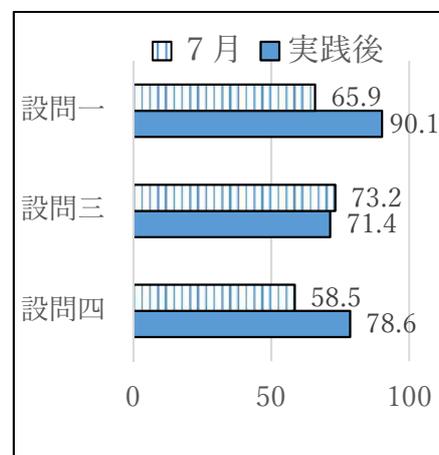


図3 実践前後の正答率比較

イ 教科書の学習材での授業実践の一部（「モアイは語る」 光村図書2年）

過程	主な学習活動	時間 形態 (分)	指導上の留意点 (○)・評価 (◆)
導入	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の流れを確認する。</p> <p>本單元では、本文の内容を捉え、自分の意見をもつ学習をします。</p> <p>本文における意見と根拠の結びつきや論理の展開、表現の効果に着目し、筆者の意見から自分にできることを考えます。</p> <p><学習課題> 文章の構成や論理の展開、表現の効果はどのようにになっているだろうか。</p>	3 一斉	<p>○ 本時の流れを把握させるために、単元の流れのプリントを確認させる。</p> <p>○ 同じ問いや似た問いの人を把握させるために、「私の問い」の一覧を配付し、みんなが立てた問いを確認させる。</p> <p>○ 本文の構成や論理の展開、表現の効果の特徴を捉えるために、既習の説明的な文章「クマゼミ増加の原因を探る」の構成や論理の展開、表現の効果と比較させる。</p> <p>○ 思考過程を明らかにするために、学習課題解決の際には、答えとなる手掛かり、キーワード、段落の関係を示す接続語などに印や線を引かせる。</p>
	展開	<p>2 学習課題の解決に取り組み、ノートにまとめる。</p>  <p>3 印や線を引いたところ、自分の考えを互いに説明し合う。対話を通して、学習課題の解決を進める。</p> <p>【対話の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は、○ページ○行目の叙述から…と考えた。」 ・「キーワードは○○だから、～だと思う。」 ・「大きく3つに分けると、～。」 ・「この部分が、主張の根拠になっている。」 ・表現の効果として、自分の意見を述べる際に、「～である」などの断定的な表現を用いている。 <p>4 学習課題について、まとめたことを全体で共有する。</p> <p>序論で4つの問いが示され、本論で答えを述べ、結論でそこから導いた主張を述べている。</p>	<p>10 個</p> <p>10 グループ</p> <p>7 一斉</p>

終 末	5 ポストテストを行う。	2 個	○ 学習の理解度を確認するために、本文の構成に関するポストテストに取り組みさせる。
	6 学習課題の解決内容を踏まえて、「私の問い」についても解決し、まとめる。	5 個	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【想定される「私の問い」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の主張はなぜ説得力があるのか。 ・ イースター島の事例はなぜ必要だったのか。 ・ 筆者は主張の根拠として何を挙げているか。 ・ イースター島と地球の未来はどう結び付いているのか。 </div>		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【想定される「私の問い」の答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イースター島を具体例とし、その共通点から地球の未来を語ることで、筆者の主張に説得力が生まれている。 ・ モアイに関する4つの問いの答えが筆者の主張の根拠となっており、分かりやすい。 ・ 結論では本論のまとめではなく、そこから考える筆者の主張が書かれており、題名とつながっている。 </div>
	7 「私の問い」の解決したことを発表する。	6 一斉	○ 解決内容を共有させるために、ロイロノートで自分のノートの写真を撮り、問いについての解決内容について発表させる。
8 本時の学習を振り返る。	7 一斉	<p>◆ 学習課題や私の問いの解決の中で、既習の説明的な文章と比較しながら、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。</p> <p>○ 本時の学習を振り返らせるために、振り返りシートを活用し、分かったことやもっと知りたいことなどについてまとめさせる。</p> <p>○ 次時の見通しをもたせるために、筆者の主張と挙げられた根拠を捉えることを確認させる。</p>	
9 次の予告をする。			

本時の学習課題や学習材ごとに立てる「私の問い」を解決するために、手掛かりになる箇所印を付けながら読み、その後、「着目した段落とその理由」「他に、どのような内容や言葉に着目したか」を互いに説明し合う。説明的な文章においては、「目的意識をもって、線や印を付けながら読むことで、文章の解釈に取り組みやすくなる。」という生徒の感想もあり、「過程を明らかにすること」を繰り返し実践していくことは有効な手立てであると考えた。

(2) 自己の考えを表現する場を設定した授業実践

本校国語科の課題として、記述式問題の無解答率が高いことが挙げられる。まずは、記述への抵抗感を減らすために、図4に示す例のように、生徒が単元を通じて身に付けたことを発揮し、主体的に自己の考えを表現する場を設定し、継続して行った。

学習材名	言語活動
朝のりレー	作者の立場で読者にメッセージをおくる
オオカミの友だち	オオカミの立場で日記を書く
空中ブランコ乗りのキキ	人物評を書く
字のない葉書	家族をテーマにスピーチをする
食感のオノマトペ	図表から読み取ったことを説明する
竹取物語	話のおもしろさを紹介しよう
玄関扉	三角ロジックを用いて主張文を書こう

竹取物語のおもしろいところをはがや
姫と帝のかんずいたと思う。

帝はかぐや姫を宮中に呼び入れようとするが、かぐや姫は応じない。しかし帝はめげず、かぐや姫の手紙のヤソとソをする。ヤソとソをしていくうちに帝のことを思うようになつてきたことが、物語の後半、「あなたのことをしおじみ思ひだしています」と、帝は歌を詠んでいることから分かる。帝も、かぐや姫が天人へ大に深く悲しみ自分の思ひが天に届くように天に近い山下で手紙をまやしてゐる。

甘ずはうれんあはれも昔も変わらぬ。

図4 自己の考えを表現する実践例と、生徒の記述例

(3) 解答類型を伴う評価問題の作成と活用

全国学力・学習状況調査の解答類型とその作成の趣旨を参考にしながら、定期テストの一部問題で解答類型を作成し、指導に活用した。生徒にどのような「思考力・判断力・表現力等」を身に付けさせるのかという指導目標を明確化し、予想されるつまづきや、それに対する手立てを系統的に考えることができる。

また、生徒の到達状況をもとに意図的なグループ編成に役立て、前述の「過程を明らかにすること」を更に充実させた。

右の図5は、「玄関扉（三省堂1年）」を扱った際の解答類型である。新学習指導領〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと 第一学年 ア 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること」について、段落をまたいで内容が把握できているかを問い、解答類型を用いて細かく分析することで、今までは漠然としていたその後の手立てを明確にすることができた。

<p>解答類型</p> <p>出題の趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の中心的部分と付加的な部分とを読み分け、内容を捉えること ・文章の展開に即して内容を捉えること ・文章の内容を捉え、書き手の意見を理解すること 	<p>解答類型</p> <p>設問4</p> <p>〔正答の条件〕 次の条件を満たして解答している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生活様式から三つ（靴を脱ぐ、土間を水洗いする、障間風を嫌う）挙げている。 ②生活習慣から一つ（おじぎをするための挨拶距離）を挙げている。 ③理由を答える文として整っている。 <p>◎1 ①②③を満たして解答しているもの</p> <p>○2 ①②は満たしているが、③を満たさないうで解答しているもの</p> <p>3 ①③は満たしているが、②を満たさないうで解答しているもの</p> <p>4 ②③は満たしているが、①を満たさないうで解答しているもの</p> <p>5 ①もしくは②のみ満たして解答しているもの</p> <p>6 右記以外の解答</p> <p>解答類型2は文章の内容を捉えることはできているが、整った文で書けていない。</p> <p>解答類型3・4は文章の内容を捉え、書き手の意見を理解することができていない。3は前半の生活様式に関する内容は捉えられているが、後半の生活習慣に関する内容は、4は後半の生活習慣に関する意見は捉えられているが、前半の生活様式に関する内容を理解できていない。また、生活様式に関する意見を三つ挙げることをおさえていない。</p> <p>解答類型5は生活様式、生活習慣のいずれかは理解できているが、整った文で書けていない。</p>
--	---

図5 解答類型の例

(4) 語彙の力を高める取組

令和2年度から、語彙の力を高めるための取組として、図6のように「コラム学習」を行っている。地方紙のコラムを週末に配布し、言葉の意味調べと、調べた言葉を使った短文作りに週末課題として取り組み、月曜日朝活動の10分間で要約を行っている。

語彙の力を高めるには、身に付いた語彙が日常生活の中に活かされていくことが大切だと考え、各種行事等の感想記入や、授業の振り返り、日記の記述などに、「コラム学習」で身に付けた語彙を活かすよう指導してきた。図7は、コラム学習で学んだ語句の言い回しが、日記や他の教科書の記述に活かされた例である。今後は、語彙の力の高まりをどのようにして見取るか、また、学年に応じた適切な語彙を、教師側がどのように判断し、身に付けさせていくかが課題である。

<p>（意味調べ）</p> <p>「意味調べ」は、調べた言葉の意味を調べる。調べた言葉の意味を調べる。調べた言葉の意味を調べる。</p>	<p>（短文づくり）</p> <p>「短文づくり」は、調べた言葉の意味を調べる。調べた言葉の意味を調べる。調べた言葉の意味を調べる。</p>
--	--

図6 コラム学習での生徒の取組

7年生も2年生も戦争に負けた学習をしていて、二人は悲惨な出来事があったんだと衝撃を受けました。2年生と3年生は少し茶番もあり面白さもありました。展示の作品は、どの作品も一つ一つ心こもっていいと思いました。

2学期の道徳の授業全体を振り返って、感じたことを自由に書いてください。

「いじめ」って連鎖していくし、必おとい。てもいいほど返ってくる。罪のない人が犠牲になるのが一番つらいことだということ。困っている人に手をさしのべて助けてあげたい。

図7 コラム学習で身に付けた語彙が活かされた例

4 研究の成果と課題

(1) 全国学力・学習状況調査国語の結果比較から

平成31年度				令和3年度			
領域	本校	全国	全国との差	領域	本校	全国	全国との差
全体	66.0%	72.8%	-6.8%	全体	63.0%	64.6%	-1.6%
「読むこと」	58.5%	72.2%	-13.7%	「読むこと」	48.6%	48.5%	+0.1%

図8 全国学力・学習状況調査「読むこと」領域の正答率の変化

平成31年度				令和3年度			
出題の趣旨	本校	全国	全国との差	出題の趣旨	本校	全国	全国との差
文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ	2.4%	1.7%	+0.7%	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	2.7%	3.4%	-0.7%
話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	17.1%	8.9%	+8.2%	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	5.4%	8.5%	-3.1%
伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	14.6%	7.9%	+6.7%	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	18.9%	24.1%	-5.2%
				伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	13.5%	9.7%	+3.8%

図9 全国学力・学習状況調査記述式問題の無解答率の変化

【成果】

全国学力・学習状況調査国語の「読むこと」領域の本校の通過率は、平成31年度に48.6%で、県や全国の値と比べ10%以上低かったが、図8のように、令和3年度は県、全国ともに上回った。また、平成31年度は全ての記述式問題（問題数3）で、本校生徒の無解答率が県、全国を上回っていたが、令和3年度は、図9のように、1問以外は県、全国を下回った。

【課題】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の通過率が、県や全国の平均と比べて約10%低かった。「コラム学習」の在り方を含め、語彙の力を伸ばすための指導について、継続して改善する必要がある。

(2) 生徒質問紙調査から

令和3年9月に、全校生徒を対象に本研究に関する質問紙調査（4件法・自由記述含む）を行った。

1 国語の授業で、文章や資料を読むとき目的に応じて必要な語や文を見付けたり、文章や段落同士の関係を考えたりしながら読んでいますか。				
学年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
3年	44.4%	42.7%	11.1%	2.8%
2年	25.8%	51.6%	15.6%	9.7%
1年	25.6%	33.3%	33.3%	7.7%

2 コラム学習で学んだ言葉や表現などを日常に活かしていますか。				
学年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
3年	5.6%	50.0%	36.1%	8.3%
2年	3.2%	38.8%	41.9%	19.4%
1年	令和3年度1学期までコラムの転写のみだったため、調査対象外			

3 「文章題の解き方」の共通実践は、問題を解く上で効果的だと感じますか。				
学年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
3年	72.2%	25.0%	2.7%	0.0%
2年	54.9%	42.9%	6.4%	0.0%
1年	38.4%	48.8%	12.9%	0.0%

注) 「文章題の解き方」の共通実践…国語科で取り組む思考過程を振り返らせる手立てを講じた授業実践を他教科でも同様に行うようにした。

【成果】

- 国語科の授業では、概ね、目的に応じて読むことができている。
- 3年生では、コラム学習で学んだ言葉や表現などを日常に活かしている。
- 「文章題の解き方」の共通実践は、約9割の生徒が、効果を実感していることが分かる。

【課題】

- △ 1・2年生では目的に応じて読むように、今後も丁寧な指導を心掛ける必要がある。
- △ コラム学習で学んだ言葉や表現などを日常に活かすように、教科の枠を越えた指導をより充実させていく必要がある。
- △ 「文章題の解き方」の共通実践（思考過程を振り返らせる実践）は1，2年生の自由記述の中に、「線を引くことで解く時間が足りなくなる」といった意見もあり、「慣れさせる」ための継続した指導や、個に応じた指導が必要である。

5 研究のまとめ

令和2年4月に本校に赴任して以降、課題を整理・分析しながら研究を行ってきた。2年間の研究の中で、子供たちの姿や調査などの数値でよい変化が現れたことを嬉しく思う。私が国語科の授業を通して目指すのは、国語科の学習にとどまらず、他教科の学習や日常生活の中で学びが活かされることである。子供たちの「社会を生き抜く確かな学力」を育成するために、今後も思考力・判断力・表現力等の育成を目指した指導法の工夫・改善により一層取り組んでいきたい。